

各報道機関 御中

(資料提供)



鳥取大学の強み「乾燥地研究」で国内トップを目指す

## 鳥取大学国際乾燥地研究教育機構が発足します

鳥取大学は、平成27年1月1日に「国際乾燥地研究教育機構」を新たに発足させます。

世界の砂漠化の問題に取り組む鳥取大学乾燥地研究センターは、最先端の研究施設と研究実績を有しており、本学の強みの1つです。これをベースにして、全学部と国際交流センター、産学・地域連携推進機構など全学の教員が参加することにより研究力、教育力を結集し、学部横断的な組織運営を行う「国際乾燥地研究教育機構」を立ち上げます。これにより、乾燥地研究を質量ともに拡大させ、我が国トップの乾燥地の研究拠点を形成し、世界の乾燥地や発展途上国に貢献していく所存です。

乾燥地に関するこのような広範囲をカバーする大規模な研究組織は、我が国には例のないユニークなものです。世界の乾燥地に対する我が国のプレゼンスを高めることに貢献し、情報交流、人的交流などを通して地域にも貢献できるものと考えております。この取組みは、国立大学法人運営費交付金・国立大学機能強化分として、平成27年度から文部科学省の重点支援を受ける予定です。

詳細につきましては、別添のとおりお送りしますので、報道機関の皆様におかれましては、取材・報道につきましてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(本件に関する問い合わせ先)

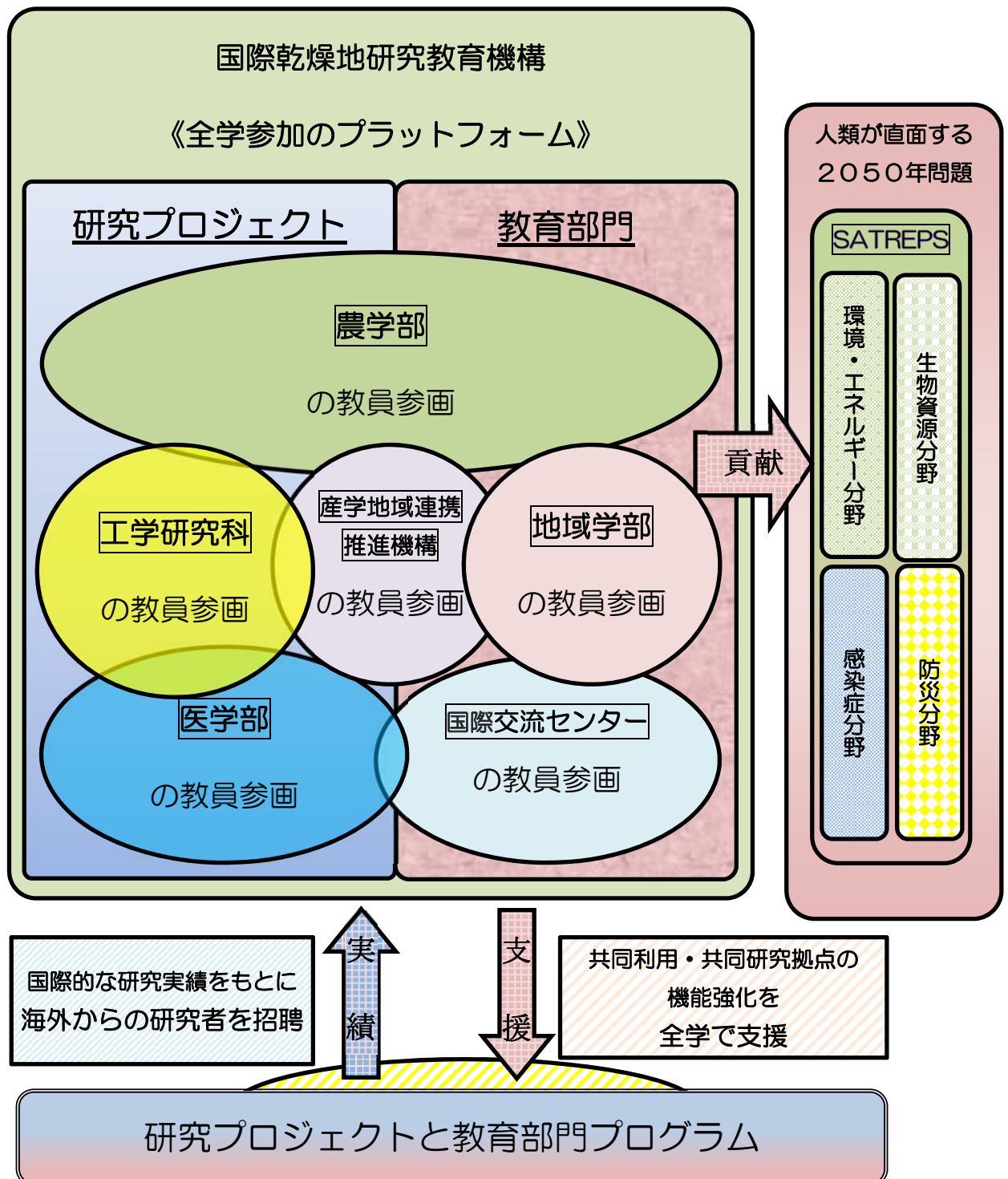
鳥取大学総務課広報企画室

TEL: 0857-31-5006

## 国際乾燥地研究教育機構（イメージ図）

- 「ミッションの再定義」にて明確化した特色、強み【研究分野】
- 学部、研究科の枠を超えた教育研究組織の再編成
- 組織運営等のシステム改革（縦割りの学部運営から学部横断への第一歩）
- 学内資源（ヒト・モノ・カネ）の重点配分

⇒ 異分野融合型の研究成果を高度専門教育へ【大学院改組(予定)】



# 国際乾燥地研究教育機構 研究プロジェクト及び教育プログラム概要

## 1「黄砂・環境修復プロジェクト」(プロジェクトリーダー: 山中 典和 乾燥地研究センター教授)

- 塩類集積下の植物・微生物共生系の解明とその利活用
- モンゴルにおける黄砂発生メカニズムの解明
- 土壌侵食・土砂流出緩和のための土地管理施策の評価と提言

## 2「農業・農村開発プロジェクト」(プロジェクトリーダー: 辻本 壽 乾燥地研究センター教授)

- 乾燥地の環境に適応できる作物育種素材の開発
- 乾燥地において資源植物を高度に生産するための農業技術の開発
- 乾燥地における水資源の確保および節水灌漑の実施による持続的農業システムの開発
- 乾燥地の持続的な家畜生産に有用な家畜衛生、疾病対策および繁殖技術の改善と開発
- 乾燥地の食糧需要、農業経済・経営・技術普及の調査による持続的農村・農業開発モデルの提言

## 3「過疎地域・産業振興プロジェクト」(プロジェクトリーダー: 谷本 圭志 工学研究科教授)

- 持続的な資源(エネルギー・水)供給システムとその管理手法の開発
- もの・サービスづくりの技術開発・移転による産業振興・地域創生

## 4「人間開発(社会, 教育, 健康)プロジェクト」(プロジェクトリーダー: 黒沢 洋一 医学部教授)

- 気候変動による健康影響の研究と教育
- 乾燥地を含む発展途上国における健康阻害要因の最大の因子であるマラリア、AIDS等の感染症予防の研究と教育
- 乾燥地を含む発展途上国での人間開発のための教育

## 5「砂丘地保全・活用プロジェクト」(プロジェクトリーダー: 永松 大 地域学部教授)

- 砂丘地の自然環境特性解明、鳥取発の砂丘地活用
- 砂丘地をめぐる古環境変遷と地域の間活動解明
- 砂丘地・乾燥地の自然エネルギー利用にかかわるシステム開発とその活用

## 6「教育部門」(プログラムリーダー: 山本 定博 農学部教授・グローバル人材育成推進室長)

- グローバル教育の体制強化と支援および外国人、日本人向けの教育・研修プログラムの企画・実施

## 「国際乾燥地研究教育機構」設置概要

### 1. 名称：国際乾燥地研究教育機構

英文：International Platform for Dryland Research and Education

英文表記の略称：I P D R E

### 2. 目的

機構は、鳥取大学における全学の研究力、教育力を集結し、乾燥地や開発途上国等に関する研究、教育及び社会貢献を推進し、本学の研究及び教育の基盤強化を図ることを目的とする。

### 3. ミッション

本機構は、本学の強みである乾燥地研究センター等を中心とする乾燥地科学に関する学術的知見をもとに、自然・人文・社会科学系の教員が参加し、全学横断の研究、教育が展開できる環境を整える。また、技術普及のスキルや海外の関係機関等との連携を強化するとともに、本学で開発した技術や得られた知見を実用化し、地元鳥取の地域創生と世界の乾燥地や開発途上国等の持続可能な開発に貢献する。同時に乾燥地研究センターの機能強化を図る。

### 4. 運営体制

機構長には学長が就任し、副機構長（理事（研究担当））のもと、共同利用・共同研究拠点である乾燥地研究センターをはじめ、全学部、国際交流センターその他の諸部局との連携を図る。

また、機構の運営にあたっては、本学関係者だけでなく、学外有識者にも参画してもらい、社会に対する透明性を確保する。

ミッション達成のため、機構に推進室を置き、5つの研究プロジェクトと教育・研修プログラムを設ける。

### 5. 業務

- (1) 乾燥地、開発途上国等に関わる研究及び教育の企画・実施に関すること。
- (2) 国内外の教育研究機関及び企業等との連携に関すること。
- (3) 国際的な教育及び研修プログラムの企画・実施に関すること。
- (4) その他、機構の目的を達成するために必要なこと。

### 6. 設置時期

平成27年1月1日